

4月28日、松本市音楽文化ホールでピアノ10台のコンサートが開かれた。なんと33年前からで、20回目を迎えたとのこと。昭和、平成と長きにわたる音楽会で、びっくりする。

小さな子供から社会人まで180人を超える若者たちが、ドレスアップして登場する姿は圧巻だった。年齢に応じて10人の演奏者が、

曰く「練習とリハーサルを通して心を合わせ、一つの音に仕上げ、晴れ舞台で演奏する様子に感動し、涙が止まらなかった。私は最後の「ラ・カンパネラ」の曲に、特別の思いが込み上げてきた。

今から15年前、職場の定年が間近になったころから次第に歩行が困難になり、病院での長期検査の結果、腫瘍が脊髄にあることが判明した。

ピアノのコンサート

主治医から「悪性なら5年くらいは命。神経を切れば下半身不随で車椅子」と告げられた。その瞬間、1万呎上空を飛んでいる飛行機が一気に地上に墜落するような心境になった。

そんなとき、妻が差し入れてくれた曲が「ラ・カンパネラ」だった。リストの傑作の一つで、落ち込

んでいた心が自然と奮起できた。聴いていると「よし、こんなことが起ころうとも乗り越えて生きよう」と思えるのだった。病室で毎日聴き続けた。

手術は無事に成功し、現在に至っている。その曲を演奏した若者たちにエールを送りながら、これからもう一度、温かい気持ちで会場を後にした。

口 差 点

こうさてん

(安曇野市穂高、荻原義重、74歳)